

新たな博物館、美術館に関する基本構想懇談会 個別ヒアリング実施結果（摘録）

- 1 日 時 令和4年12月15日（木） 午後2時00分～3時00分
- 2 開催方法 オンライン会議システムを活用して実施
- 3 対象者 八木橋委員

4 意見聴取

- (1) 新たなミュージアムの事業及び施設（諸室）のイメージ（案）について
- (2) 川崎市市民ミュージアム収蔵品の活用について
- (3) その他

※令和4年12月9日（金）に開催した第3回新たな博物館、美術館に関する基本構想懇談会と同様の資料を用いて意見交換を実施

5 実施結果

(1) 新たなミュージアムの事業及び施設（諸室）のイメージ（案）について

①事業について、特に力を入れていくべき取組や必要と考えられる取組について

- ・ 「収集・保管、調査研究、展示」を基盤としつつ4つの事業を行うという考え方はその通りだと思うので、このとおりに進めてほしい。それぞれに具体的な取組が例示されているが、一過性のもではなく、長期的に考えていくことが大切。
- ・ モノを介した対話について、民俗の分野では「回想法」の考え方がある。うごくミュージアムとして、資料貸出によって高齢者が実際に資料に触れるような体験を提供することで認知症予防につなげることができるなど、高齢者との新しいつながりを作ることも期待できる。民俗資料は壊れたら直せばよいと考えているので、実際に資料に触れてもらい、地域と社会に積極的に関わる展開ができるのではないか。
- ・ アフターファイブミュージアムの考え方は、社会人がミュージアムに足を運びやすくなるのでとてもよいと考える。ただし、開いているだけ、営業しているだけではなく、学芸員がいてプログラムが行われていることが重要となる。毎日夜間営業を行うとなるとコスト面も含めて大変だと思うので、特定日に開催するのがよい。

②各諸室機能の必要性について

- ・ エリア分けするという考え方は運用上よいのではと考える。ただし、エリアの機能が他のエリアと連動する形について考えていく必要がある。

③「まちなかミュージアム」について注力すべき点や展開手法について～

- ・ 「まちなかミュージアム」の連携先のひとつとして、日本民家園を活用するのはよいのではないか。日本民家園の中に美術作品があるという連携のかたちや、日本民家園には小学校が見学に来ているので、連携して学校向けのプログラムの展開を行うことで、新たなミュージアムへの来館にもつながるのではないか。
- ・ 「まちなかミュージアム」の内容が、パネルを展示しているだけということでは弱い。民俗資料であれば実物に触れてもらうことも可能なので、「まちなかミュージアム」を体感できる場にすることもできる。

④「新たにどんなミュージアムができるのか」ということを市民に発信する際、新たなミュージアムの幹として際立たせられるような言葉、キーワードやキャッチフレーズについて

- ・ 魅力的なわからなさから、来館すると何かが「+1」されるという考え方はよいと思うし同感できる。その上で、普段ミュージアムに足を運ばない市民でもそれが見える形にしていくことが重要。

(2) 川崎市市民ミュージアム収蔵品の活用について

⑤既存収蔵品の活用方法について～

- ・ 自分は民俗分野が専門なのでその視点から発言すると、基本展示をどのように成立していくのかが心配。民俗資料は水没してしまうと廃棄せざるを得ない資料が出てくると想定される。修復作業について今後将来的なことを考えていく必要がある。
- ・ 漫画分野は日本に多くのコレクターがいて、そのうち高齢でコレクションの今後の管理を考えている人もいと想定されるので、そうした方に募集をして、被災により廃棄した収蔵品と同様の資料を寄付していただくという展開も考えられる。漫画に限らず、博物館・美術館分野それぞれでも同様の考え方ができる。
- ・ 「被災」や「修復」については、被災前後の比較を行うことが大切。

(3) その他

- ・ 市民ミュージアムが被災したということ踏まえると、一般的ではないが、新たなミュージアムの収蔵庫がどのようになっているかということ発信しても面白いのではないか。

新たな博物館、美術館に関する基本構想懇談会
個別ヒアリング実施結果（摘録）

1 日 時 令和4年12月16日（金） 午後2時00分～3時00分

2 開催方法 オンライン会議システムを活用して実施

3 対象者 齋藤委員

4 意見聴取

(1) 新たなミュージアムの事業及び施設（諸室）のイメージ（案）について

(2) 川崎市市民ミュージアム収蔵品の活用について

(3) その他

※令和4年12月9日（金）に開催した第3回新たな博物館、美術館に関する基本構想懇談会と同様の資料を用いて意見交換を実施

5 実施結果

(1) 新たなミュージアムの事業及び施設（諸室）のイメージ（案）について

①事業について、特に力を入れていくべき取組や必要と考えられる取組について

- ・ 「交流創出」に特に力を入れていくべきだと思う。川崎市の過去や現在、未来について、ワークショップやイベントを通じて、市民とミュージアムが積極的に交流しながら考えることで、市民がミュージアムに関するイメージを持ちやすくなる。
- ・ 何よりもまず、ミュージアムのことやミュージアムが行っている事業について市民に「知ってもらおう」ことが重要となるので、「交流創出」の取組によって、市民とミュージアムの接点を創出し、拡大していくことが大切だと思う。

②各諸室機能の必要性について

- ・ 各機能の必要性について整理することも必要であるが、各エリアのつながりについて整理することも必要。
- ・ 「はぐくむエリア」や「つながるエリア」など、相互に作用するエリアがあると考えられるので、次の計画段階等では各エリアのつながりを具体化する検討ができればよい。

③「まちなかミュージアム」について注力すべき点や展開手法について～

- ・ 学校や区役所等の行政施設への資料の貸出は積極的に行ってほしい。
- ・ マーケティングの観点からは、行政施設だけでなく、飲食店やコンビニエンスストア、スーパーマーケットのような「美術品や博物館資料が普段なら絶対に無い場所」、「より市民生活に密着した場所」と連携していくことが必要であると感じる。普段の生活の中に、そうした「一味違うスパイス」が現れるだけで、市民がミュージアムのことを意識するフックになると考えられるので、固定概念にとらわれない「まちなかミュージアム」の展開についても期待したい。

④「新たにどんなミュージアムができるのか」ということを市民に発信する際、新たなミュージアムの幹として際立たせられるような言葉、キーワードやキャッチフレーズについて

- ・ 稲庭委員からの意見にもあったが、キーワードやキャッチフレーズは、市民と協働でアイデア出しを行い、そこで出たアイデアを、コピーライターなどの専門的なスキルを持つ人に取りまとめてもらうような手法で検討していくのがよい。最初から最後まで市民と協働で考えようとするとうアイデアの取りまとめが難しく、同じく最初から最後まで専門的なスキルを持つ人に委ねると前提条件となるアイデアの整理が難しい。

(2) 川崎市市民ミュージアム収蔵品の活用について

⑤既存収蔵品の活用方法について

- ・ 被災した収蔵品の修復の様子を積極的に、市民が身近に感じるように発信してもよいのではないか。半年おき、一年おきにまとめて情報を発信するのではなく、例えば「note」など、手軽に発信できる、身近に感じることができるSNSを活用し、発信の頻度を高めていけば、より多くの市民に情報を届けることができるようになる。
- ・ 頻度を高めることで一回に発信する情報の量が少なくなったとしても、SNS等はサービスが終了しない限り発信した情報が蓄積されるので、それを取りまとめることで情報量の多い発信を行うこともできる。

以 上